

平成 29 年度「公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果」における評価委員会意見の反映状況について

区分	小項目（評価委員会による評価）		評価委員会意見の反映状況
	評価委員会による意見・コメント等	掲載頁	
教育研究等の質の向上	学部専門教育（B）		
	○カリキュラムの変更は大変であるが、それぞれの学部が改善に向けて議論をしている。情報科学部のプログラミング教育検討ワーキンググループの設立など準備が始まっているが、具体的な大きな変更には至っていない。	10	情報科学部のプログラミング教育検討ワーキンググループにおいて、学生の学習意欲を高めるために Processing などのビジュアル系プログラミングに関する内容をプログラミング教育の導入部分に加えることを検討し、平成 30 年度から「プログラミング I」で実施している。また、機械学習向きの言語である Python などの導入について検討を行った。 さらに、カリキュラム改革として、革新的で創造性豊かな人材を育成する「イノベーション人材育成プログラム」の開講科目「高度プログラミング」及び「情報システム開発」（あるいは、これらに相当するプログラミングに関する専門科目）の導入を検討してきており、これらの専門科目は、令和 2 年度から開始予定のカリキュラムにおいて新たに導入し、プログラミング教育を強化する予定である。
	学生の確保（A）		
	○高大接続改革に対応した具体策の検討などの取組はあるものの、優秀な学生の確保に向けてもう少し総合的な取組が欲しい。	22	優秀な学生の確保に向けては、教育内容の充実が不可欠であることから、入学前教育やリメディアル教育の充実を図るとともに、カリキュラムの見直しを進めている。また、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー）に係る PDCA サイクルにより、教育の内部質保証システムを充実するため、IR（内部質保証（高等教育機関が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を基に改革・改善に努め、それによって、その質を自ら保証すること。））の本格的な導入に向け取り組んでいる。
	研究活動の活性化（B）		
○科学研究費獲得のための方法がレクチャーされていないため、科学研究費の申請が採択されなかった場合に、なぜ自分の研究が評価されなかったのかという疑問を解明できないままである。今後外部資金獲得は、大学存続の大命題となるので、この分野へ優れた人材を登用することは必須である。	29	科学研究費の獲得を促進するため、平成 28 年度から、アドバイザー制度、事前コメント制度及び申請書閲覧制度による支援を行っている。平成 30 年度には、科研費に応募して不採択となった研究計画について、次年度の科研費獲得のために研究実績をつくることを目的として科研費獲得支援研究費制度を新設した。 また、令和元年 7 月には、科研費を含む外部資金の獲得実績の向上に資することを目的として「科研費・外部資金獲得セミナー」を実施するなど、研究活動の活性化に取り組んでいる。	
業務内容の改善及び効率化等	財務内容の改善（B）		
	○獲得した外部資金を利用することによって、学内における研究スペースの確保などにつながるなど、外部資金獲得のインセンティブを作り出すことも必要ではないだろうか。	46	これまで、教員の外部資金獲得額に応じた一定額を当該教員が所属する各学部等に配分し、各学部等の創意工夫により、教育研究環境の整備を行っている。 また、外部資金を継続的に獲得するなどの実績に対しては、学内の研究費を傾斜配分するなど外部資金獲得に向けたインセンティブ制度について検討している。